

(様式) 平成24年度徳島県立阿波高等学校：「学力・学習状況」改善プラン

1 学力向上推進員 職・氏名 (省略)

2 学力向上検討委員会構成

職名	氏名
省略	省略

3 現状・課題

学力	本校には、概ね基礎学力を持った生徒が入学してくる。しかし校外模試などの結果を分析してみると、十分にその学力を伸ばしているとは言い難い。特に例年第2学年では成績の下降傾向が見られる。学年団と各教科との有機的な連携や、教師の更なる教科指導力の向上が課題である。
学習状況	家庭学習が十分でない生徒の割合が高い。またその一方で3年生では、受験勉強のスタートが遅れてしまったことで不安や焦りを感じていると回答する生徒も多い。そのような現状からも、いかに早期に、生徒個々に望ましい学習習慣を定着させるかが課題である。
進路	多くの生徒が国公立大学への入学を希望している。しかしながら国公立大学合格者全体の数は延べ59名であり、数値目標を達成することはできなかった。今後は、更に多くの生徒の第一希望が実現できるように、全教員が一丸となって取り組んでいかなければならない。

4 目標等

(1) 学力について

国語科					
重点目標：現代文及び古典を理解するための能力や論理的に自己の考えを表現できる能力を育成する。					
学年	具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
1	① 基礎的な知識の理解と定着を図る。	① 校外模試で全国平均を上回る生徒の割合の増加または維持	①-1 基礎的な知識の理解と定着を図るため、適宜小テストを実施し、不合格者には追試を行う。 ①-2 定期考査や課題テストの前の学習課題を提出させる。	4・3・2・1	
2	① 基礎学力のより一層の充実を図り読解力を付ける。	① 校外模試で全国平均を上回る生徒の割合30パーセント以上	①-1 週に一度、基本的事項の確認テストを必ず行い、知識の定着を図る。 ①-2 教材研究をより綿密に行うことで、読解力を付けることができるような授業を展開する。	4・3・2・1	
3	① 応用力を高め、入試問題に対応できる実力を養成する。	① 大学入試センター試験の校内平均点が全国平均点を上回る。	①-1 読解力をより一層向上させるための授業を展開し、得点力の向上を図る。 ①-2 授業時に小テストを実施し、語彙力や文法力、句法力のより一層の拡充を図る。	4・3・2・1	

地歴・公民科					
重点目標：社会の成り立ちや諸課題について関心を持たせ、それらについて自ら考察する資質を育成する。					
学年	具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
1	① 学ぶ意欲を高め、基礎学力の定着を図る。	① ノートや課題の提出率 100 %	① 定期考査前に学習課題を準備し、提出させる。	4・3・2・1	
	② 時事問題について関心を持たせる。	② 時事問題についてのレポートの提出率 100 %	② 現代社会の諸問題についてテーマを設定し、その課題レポートを作成、提出させる。	4・3・2・1	
2	① 基礎学力の定着を図る。	① 校外模試で全国平均を上回る生徒の割合の増加または維持	① 教材研究を一層充実させ、より質の高い授業を展開する。	4・3・2・1	
	① 基礎学力の定着及び考察力の向上を図る。	① 大学入試センター試験の校内平均点と全国平均点の差 10 点以内	①-1 生徒との面談や模試の結果分析を綿密に行い、生徒に応じた授業を工夫する。 ①-2 現代社会の諸課題に関心を持たせるとともに小論文等にも対応できるような題材の提供や問題演習を適宜行う。	4・3・2・1	

数学科					
重点目標：数学の原理や法則を体系的に理解し、それらを積極的に活用できる能力を育成する。					
学年	具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
1	① 学ぶ意欲を高め、基礎学力の定着を図る。	① 校外模試で全国平均を上回る生徒の割合の増加または維持。	①-1 日々題と定期考査前の学習課題を提出させる。 ①-2 生徒に対し、学習の進め方を詳しく説明する。	4・3・2・1	
	① 基礎学力の定着を図り、論理的思考力を伸ばす。	① 校外模試で全国平均点を上回る生徒の人数を1年1月と比較して増加または維持する。	①-1 日々の課題を学習週間・長期休業日を除き、毎日出題し、提出させる。 ①-2 定期考査や模擬試験の結果分析を綿密に行い、弱点に焦点を当てた授業を展開する。	4・3・2・1	
3	① 基礎学力および応用力の充実を図る。	① 大学入試センター試験の校内平均点と、全国平均点との差を5点以内にする。	① 模擬試験の結果分析を綿密に行い、授業や補習により、生徒の学力の伸長を図る。	4・3・2・1	

理科					
重点目標：科学的事象への興味の喚起，基礎学力の定着を徹底し，思考力を高める。					
学年	具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
1	① 高校理科における基礎学力の定着を図り，学習への意欲を喚起する。	① 問題集や課題の提出率を 100 %	① 家庭学習を行う習慣を身につけさせ，基礎・基本を繰り返し演習することができるよう，問題集を活用したり，学習プリントを配布したりして，生徒の学力の伸長を図る。		
				4・3・2・1	
2	① それぞれの科目において，学習への意欲を喚起するとともに現象理解の深化に努める。	① 各科目の授業において，演示または生徒実験や ICT を活用した授業を一講座につき年間 5 回以上	① 各科目の授業において，演示または生徒実験や，理科ねっとわーく，その他視聴覚教材を用いた授業を可能な限り展開することで，現象や法則の理解を図り，科目に対する更なる興味を喚起し，自己学習につなげる。		
				4・3・2・1	
3	① 各科目において，知識の定着を図るとともに，それを用いた事象への科学的考察力を身につける。	① センター試験において，各科目の全国平均点を上回る生徒の割合が前年度以上	①-1 定期考査や模擬試験の結果等を参考にしながら，生徒の弱点を分析し，そこに焦点を当てた授業展開を行う。 ①-2 特に理系志望者には，早い段階で，将来の学びと連結して科目内容を捉えさせ，学習意欲の更なる喚起を図る。 ①-3 必要に応じて特別補習や学習合宿を行い，重点的に学習の機会を持つことで，生徒の理解を助ける。 ①-4 早朝・放課後補習の内容をさらに充実させ，二次試験に対応できる力と，生涯にわたって学び続ける事のできる力を身につけさせる。		
				4・3・2・1	

英語科					
重点目標：生徒の学びへの意欲や関心を高め，自主的・主体的に学習に取り組む態度を身につけさせる。					
学年	具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
1	① 家庭での英語の学習習慣を定着させる	① 日々の課題，週末課題の提出率 80 %以上	① 英単語テキストを日々の課題として，英語総合問題集を週末課題としてそれぞれ与える。 ①-2 単語テストを週 1 回実施し，不合格者には，個別指導を行い，学習の進め方等を指導する。		
				4・3・2・1	
2	① 家庭での英語の学習習慣を一層定着させる	① 週末課題，日々の課題の提出率 80 %以上	① 英文法のテキストを週末課題として，速読演習を日々の課題としてそれぞれ与える。		
	② 英文読解力を更に伸ばすため，語彙力や文法・語法の知識を増やす。	② 小テストの平均点 70%以上	② 単語テスト，文法・語法テキストを使った小テストを週 1 回ずつ行う。また不合格者には追試や個別指導を行い，学力の拡充を図る。	4・3・2・1	

3	① 英語力の完成を図り、入試に対応できる実力を養う。	①リスニングも含めた大学入試センター試験の全国平均点と校内平均点との差10点以内	①模擬試験の結果分析を綿密に行い、その結果を参考にしながら授業方法や補習内容の改善を図る。	
				4・3・2・1

(2) 学習状況について

重点目標：家庭での学習習慣の定着を図り、主体的に学ぶ態度を育む。					
学年	具体的目標	数値目標	具体的方策	評価	改善点
1	① 入学後初期の段階で望ましい学習習慣を確立させる。	①平均家庭学習時間 2.0 時間以上	①-1 毎朝行う「学習時間調査」を担当、副担任がチェックし、望ましい生活習慣の確立を促し十分な学習時間を確保させる。 ①-2 定期的に学年会を開き、生徒の学習状況や生活状況などの情報を共有し指導に当たる。		
				4・3・2・1	
2	① 家庭での学習習慣を定着させる。	①平均家庭学習時間 2.5 時間以上	①-1 毎朝の「家庭学習時間調査」を担当、副担任がチェックし、学習時間、生活状況、また教科での学習の偏りなどについてコメントを記入したり、声かけを行う。 ①-2 定期的に学年会を開き、生徒の学習状況の把握やその改善法について協議する。 ①-3 担任が必要に応じて面談を実施し、学習方法や進路についてアドバイスをを行う。		
				4・3・2・1	
3	① 自己の将来を見据え、主体的に学習する態度を育成する。	①平均家庭学習時間 3.0 時間以上	①-1 担任が積極的に生徒と面談を実施する。 ①-2 生徒にしっかりと進路意識を持たせるために、早期に進路講演会を実施する。 ①-3 進路課と連携をとりながら定期的に学年会を開き、生徒の学力向上の手立てや進路実現の方策について協議する。		
				4・3・2・1	

(3) 進路について

進路目標 (数値目標)	評価	改善点
①国公立大学合格者 70 名以上 ②進路未決定者 10 %以内		
	4・3・2・1	

※評価欄の上段には、各具体的目標における数値目標の達成状況について記入する。下段には、達成状況を「4 十分できた 3 概ねできた 2 あまりできなかった 1 できなかった」で判断し、該当番号に○を付ける。